



SMC JAPAN
Science Media Centre of Japan

一般社団法人 サイエンス・メディア・センター

Introduction

一般社団法人として公共的な活動をめざす SMC は、早稲田大学の研究者が中心になって運営しています。先端の研究成果を生かし、多様な意見をつなぐコミュニケーションのベースとしての役割を果たしつつあります。今後、この試みが、社会に根付き、いっそう活用されていくためにも、大学（研究機関）・民・官との連携を持ちつつ、独立した組織でありたいと考えます。様々なセクターとの連携、さらなるご支援をよろしくお願いたします。



サイエンス・メディア・センター 理事長
佐藤 正志

“

日本にはこれまでになかった科学ジャーナリズムの新しい試みがある。一般社団法人サイエンス・メディア・センターがウェブ場で行っているものがそれで、一つの問題に対して肯定的・否定的双方からの科学的なコメントを掲載し、さまざまなメディアが立体的にその問題を捉えるためのプラットフォームを構築しつつある。

”

八代嘉美 / 京都大学 iPS細胞研究所 准教授
『思想地図β vol.2』 contetures (2011)

“

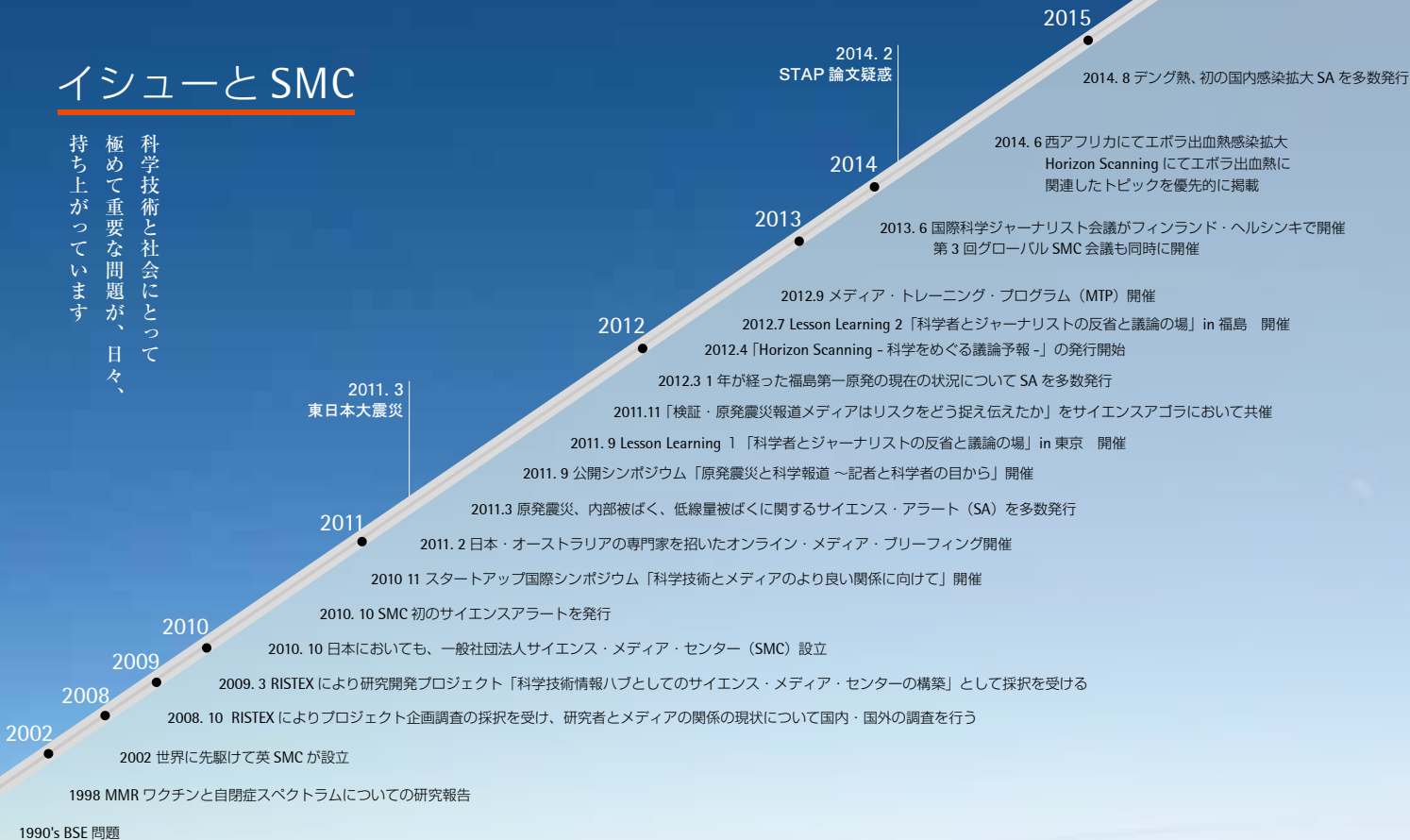
メディアにとって専門家ならだれでもよいわけではなく、科学者にしてもどんなメディアに対してもコメントしなければならないということではないだろう。センター（注：SMCのこと）は、異なる見解がある問題には意見の多様性に配慮しつつ、科学的な裏付けが確かな科学者の声を伝えるよう心がけてきたようだ。（中略）
メディア側からみても、センターを便利な道具として利用するだけではなく、科学者との対話の場としてとらえていくことが必要だろう。必要になったときに使う「電話帳」ではなく、常に話しかけ耳を傾ける「雑記帳」のようなものかもしれない。

”

滝 順一 / 日本経済新聞 編集委員
『日経サイエンス』砂漠の駝鳥 当世かがく考 (2014)

イシューとSMC

科学技術と社会にとって
極めて重要な問題が、日々、
持ち上がっています



SMC About SMC



CC BY-NC-ND 2.0 Photo by Australian Science Media Centre

SMC の設立背景

私たちは今、利害が複雑に交錯する社会に生きています。これには、科学技術の知の膨大な蓄積が関係しています。しかし、社会が持っている科学技術の知識の全てを、市民ひとりひとりが理解したうえで、未来を選び取ることは不可能です。

そしてまた、ある科学技術の分野を研究する専門家が、その分野の知識だけで問題を解決することもできません。複雑に絡み合った問題を解決する糸口は、さまざまな分野の専門知識、そして社会の全ての人々の知恵を組み合わせ、議論するなかではじめて浮かび上がってきます。

日本の多様なメディア空間は、他国と比較しても豊潤な科学技術情報で溢れています。科学ニュースの数量そのものも豊富です。全国紙は数十名規模の記者がいる科学部を持ち、インターネット空間でも、日本語の豊富な科学情報が流通しています。

しかし、この豊富な情報ゆえに、「いま社会で議論すべき科学技術の問題」を焦点化するのには難しくなっています。



CC BY-NC-ND 2.0 Photo by IAEA Imagebank



CC BY-SA 2.0 Photo by xtcbz



こうした議論の始まりの場となるのが「メディア」です。社会に向けて専門知識を伝えたいと願う研究者、そして研究者を含む社会全体の声が織りなす議論を形にして伝えていく使命を持ったジャーナリスト。私たちは、科学技術の専門家とジャーナリストの関係を取り持つことで、閉塞しがちな議論に変化をもたらすことができると考えました。

社会の多くの人が、よりよい未来の選択に向けて科学技術の情報を共有するために。私たちは「科学を伝える人を支援する」をミッションに掲げ、社会に支えられながら、サイエンス・メディア・センターを運営していきます。



ジャーナリストの声

豊富な科学技術情報が提供されているが ...

- ・わかりやすく説明できる研究者が少ない
- ・地方にいて専門家を探すことが難しい
- ・倫理や政治要素を含む科学問題については語ってくれない

研究者の声

ジャーナリストは社会に向けて科学を語る際、特に重要な聴衆だが ...

- ・科学の不確実性をわかってくれない
- ・コメントの不適切な引用をされてしまう
- ・あらかじめ作ったストーリーを押しつけられる



SMC's Data

データでみるSMC

1362140

ページビュー

470

人

東日本大震災後
1カ月間のWEB
のアクセス数

SMCに登録している
ジャーナリスト
メディア関係者数

26467

シェア

SMCの記事が
シェアされた回数

7859

件

東日本大震災後、世界
中でSMCのコメント
を利用した記事数
メディアモニターによる

123

件

科学技術イベントの
インターネットライブ
配信件数

381

人

SMCデータベースに
登録されている
研究者数

283

ビュー

インターネットライブ
配信平均視聴者数

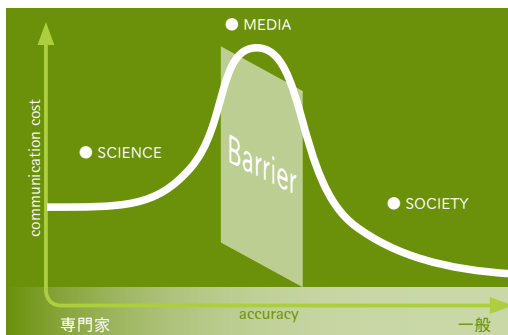
データ集計期間

2010年10月1日 - 2015年2月28日

Function of SMC

SMCの役割

コミュニケーション・コストを下げる 科学とメディアの触媒としての SMC

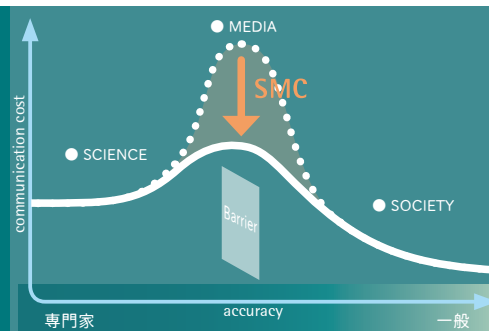


従来のコミュニケーションの問題点

- ⊖ 何が問題なのかわからない
- ⊖ 研究がうまく伝わらない
- ⊖ 偏った情報が社会へ伝わる
- ⊖ 「専門家」が見つからない／語ってくれない

SMC が下げる メディア・コミュニケーション・コスト

- ⊕ 社会に向けて「語る」専門家を増やす
- ⊕ 「語る」機会に適切な専門家に声をかける
- ⊕ 専門家の意見分布をコメントとして提供
- ⊕ 「専門家」を探すお手伝い



ニーズに合った情報と ヒントを提供します

メディアの構造が激しく変わりつつある現代。
より高度に、より専門化していく科学技術の取材は、
ますます難しくなっています。
たとえば、東日本大震災とその後の
原発・放射性物質汚染の問題に際しても、
多くのジャーナリストが困難に直面しました。

こうした問題に際し、ジャーナリストが社会の議題を
構築していく役割を果たす際には、

- (1) 科学技術の基礎知識
 - (2) 科学技術の社会的な問題構造や意見分布の把握
 - (3) 科学技術を正確に説明できる適切な専門家の探索
- といった課題が立ちはだかります。

私たちは、科学技術を専門としないジャーナリストでも、
こうした課題に適切に対処できるよう、
データベースに登録頂いた方々に、
さまざまなサービスを提供しています。

科学技術の専門家の 探索支援

普段から科学技術を専門としてない
ジャーナリストにとって、
「どの専門家が取材相手として信用できるのか」
というのは頭を悩ます問題です。
私たちは、学術的に信頼できる
研究活動を行い公正に評価され、
しかも、必要に応じて社会に向けて語る意思のある、
科学技術の専門家のデータベースを
構築・拡張し続けています。
私たちにご相談頂ければ、こうしたデータベース等
を利用して専門家探索のお手伝いをしています。



「サイエンス・アラート」 「Horizon Scanning – 科学をめぐる議論予報 –」の発行

ある科学技術の問題に対し、その分野の専門家はどのように見ているのでしょうか？問題を正確に把握するには、複数の専門家に取材することが重要ですが、専門家の多くは口が重く、交渉も容易ではありません。運良くコメントを取れたとしても、確認して報道にこぎ着くまでには、大変な手間がかかります。

私たちは特定の問題に関する複数の専門家からコメントを収集した情報リソース「サイエンス・アラート(SA)」をメール配信しています。

SAに並ぶ専門家のコメントを俯瞰すれば、専門家の意見の一致する点と分かれる点が浮かび上がってくることでしょう。

SAの内容は自由に報道利用できますし、追加取材を行うこともできます。さらに、これから議論になることが予想される科学技術のトピックに関し、

- ①海外 SMC からの情報
- ②学術出版社からの情報
- ③研究者からの問題提起

などについて、毎週1回、ご登録いただいているメディア関係者やジャーナリストに向けて「Horizon Scanning- 科学をめぐる議論予報 -」としてメール配信しています。なお、ご登録いただいている一般の方々にも、1週間遅れで「メールマガジン」として同じ内容を配信しています。



Science  ALERT

議論の場の創出

科学技術の問題を社会に問うジャーナリストには、専門家に率直な質問をぶつけられる場が必要です。また、科学技術の専門家にとっても、市民の代表者としてのジャーナリストとの議論は非常に意義深いものです。

これまでも SMC は、科学技術の専門家とジャーナリストを仲介する場として、新技術に関するメディア・フリーフィングや、これからの科学のあり方を考えるサイエンス・カフェといった議論の場を提供してきました。また、東日本大震災後には、多くの専門家とジャーナリストが一同に介し、これまでの報道の問題点、専門家側の問題点を振り返り、社会から求められている科学技術の議題について話し合う場「レッスン・ラーニング」を、東京と福島で2回にわたって開催しました。

今後も、SMC では時宜に応じた議論の場を提供していきます。



レッスン・ラーニング in 東京 (2011.9.11)

「社会」に伝わる「科学」を語る 「伝えたいこと」をサポートします

東日本大震災を経て、研究者の社会的責任としての「アウトリーチ活動」がますますクローズアップされています。研究者の本来の使命は研究そのものです。しかし、その研究を通じて獲得した専門性が社会的に求められたとき、専門家である研究者には、社会に向けた説明責任が生じます。このような、メディアを通じたアウトリーチ活動には、メディアそれぞれの効果や特性を踏まえたノウハウが必要です。誤ったコミュニケーション手法を選択すると、かえって社会に混乱をもたらしてしまうだけでなく、社会と対話しようと試みた意志ある研究者自身を傷つけてしまいます。

SMCでは、科学技術とメディアのあいだのコミュニケーション研究の成果を踏まえ、科学技術の専門家、学術組織や研究機関に向けて次のようなサービスを提供しています。

専門家データベースの構築

日本でも「科学技術コミュニケーション」の活動が続けられ、メディアに対して適切に語るスキルと意思のある専門家が増えてきました。しかし、こうした「語れる」専門家の多くはジャーナリストには知られていません。そこで私たちは、「語れる」専門家の情報を収集し、ジャーナリストの要請に応じて紹介できるよう、データベースを構築しています。すでに多くの専門家にご登録いただいております。実際に科学技術イシューに関して語っていただいております。データベースをより充実させるために、各分野の専門家の皆様のご登録をお待ちしています。



メディア・トレーニング・プログラムのご案内

メディアで語れる研究者へ



取材に応じた経験のある研究者からは「発言を恣意的に引用された」などの不満を聞くことがあります。しかし、こうしたトラブルの多くはちょっとした取材対応の工夫で、未然に回避できます。マスメディアを通じて語るには、科学技術コミュニティ内部に向けて語るのとは、また異なるコツが必要なのです。

SMCではマスメディアコミュニケーション論、社会心理学や科学社会学の研究成果を踏まえつつ、JST-科学コミュニケーションセンターと協働し、こうしたメディア・アウトリーチのコツを「メディア・トレーニング・プログラム (MTP)」として学会や大学などの組織に対して提供しています。また、研究者向けに、第一線のジャーナリストを迎えておこなう対話型・少人数の実践トレーニング・セミナーなども開催しています。

※ 詳細・費用はご相談下さい。
www.jst.go.jp/csc/workshop/

特定分野の科学技術ニュースのクリッピング提供

毎日、インターネット上では国内外問わず大量の科学ニュースが流れています。そのなかからそれぞれの研究分野に関連したニュースを的確に拾い上げる作業には、多くの手間がかかります。SMCでは、科学技術のネット情報を収集(クリッピング)し読みやすいメールのかたちで契約者様にお届けするサービスを有償で提供しています。内容はニーズに合わせてカスタマイズいたしますので、たとえば研究プロジェクトのサイトのトップページに、関連分野の最新ニュースを掲載することで、研究分野の動向を訪問者に提供することも可能です。

シンポジウム・学会等の撮影及びインターネットライブ配信

インターネットの普及により、いまやスマートフォン1台で世界に向けて発信することも簡単になりました。しかし、シンポジウムや講演会を、綺麗な画像や音質、安定した回線、そして見やすいカメラワークで効果的に配信するには、良質な機材や熟練したスタッフが必要です。SMCでは、学術情報に特化したインターネットライブ配信サービスを提供しています。USTREAMもしくはニコニコ生放送 (SMCチャンネル) からの配信に対応できます。広告無し放送や終了後のビデオ編集・納品、二カ国語同時放送などにも対応いたします。



2010年10月から2015年2月までに123本の配信を実施

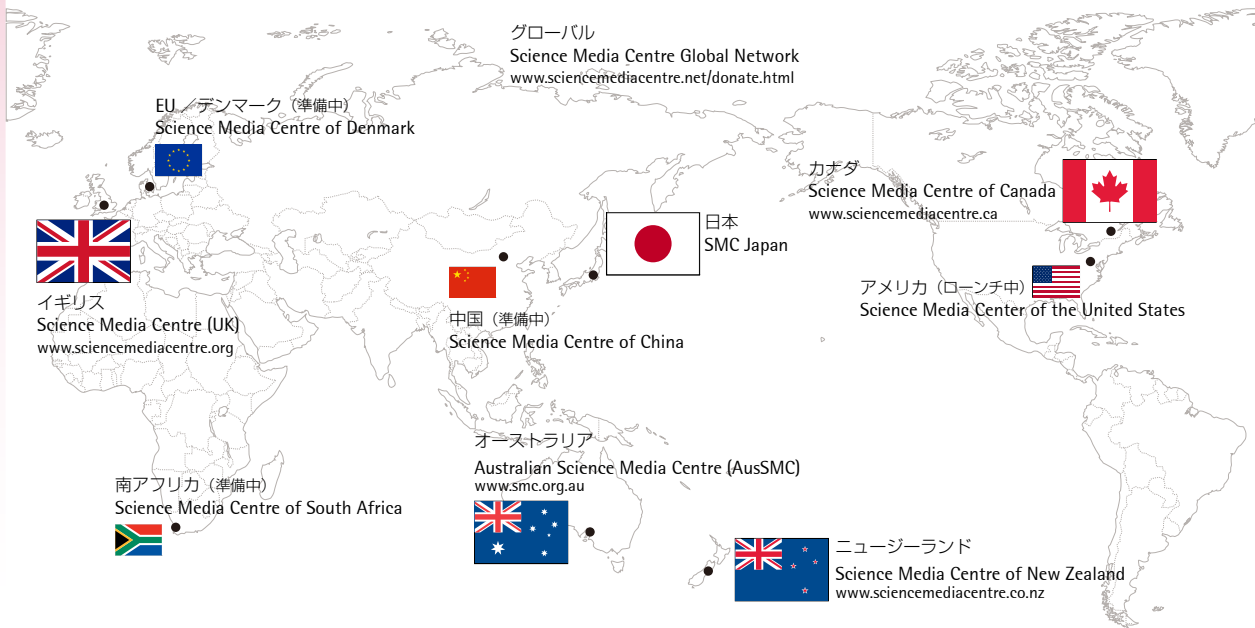


科学の“Japan Passing”への対策 日本から世界へ科学技術に関する情報を英語で発信

サイエンス・アラートを英語で発信するだけでなく、TwitterやFacebookなどのソーシャルメディアでも発信してきました。その結果、SMCの記事は多くの海外メディアに掲載されました。

世界に広がる SMC ネットワーク

イギリスから始まったサイエンス・メディア・センターは各国に広がっています。各国に設立された SMC は運営手法に関する情報共有だけでなく、グローバルに影響する科学技術の問題に対し、海外の専門家コメントを翻訳し、提供し合うことを始めています。



グローバル
Science Media Centre Global Network
www.sciencemediacentre.net/donate.html

EU /デンマーク (準備中)
Science Media Centre of Denmark



イギリス
Science Media Centre (UK)
www.sciencemediacentre.org



中国 (準備中)
Science Media Centre of China

オーストラリア

Australian Science Media Centre (AusSMC)
www.smc.org.au



ニュージーランド
Science Media Centre of New Zealand
www.sciencemediacentre.co.nz

カナダ
Science Media Centre of Canada
www.sciencemediacentre.ca



アメリカ (ローンチ中)
Science Media Center of the United States



海外の SMC ネットワークからのメッセージ



Fiona Fox OBE
Director / SMC UK
イギリス

世界初のサイエンス・メディア・センターのディレクターとして、世界各国で新しい SMC が立ち上がるたびに喜びを感じます。メディアのシステムが違っていても、この SMC のモデルはどの国でも成功できることが証明されました。成功の鍵は、科学界のブランド名や組織の言いなりになるより、「適切な科学を伝えていきたい」という思いを優先にしてきた努力にあります。今では、SMC は自由に科学の真実を発現することができ、メディアと研究者から信頼される存在になりました。この信頼は、SMC の資金提供協定にも反映されています。

最近になって海外ネットワークの利点や将来性に気づき始めました。2011年の東日本大震災、および福島原発事故については、SMC たちは原発に詳しい専門家の意見を共有し、日本の SMC と毎日連絡を取りな

から現地の状況を確認することができました。時差がほとんど無い国の SMC の間でも共同プレス発表を行うことも増え、科学者たちは自分たちの声をより遠くまで主張することができ、ジャーナリストたちもこれまで連絡がとれなかった専門家と話し合うことが可能となりました。

2011年、ドーハで行われた国際科学ジャーナリスト世界会議において初のグローバル SMC 会議が開かれました。イタリア、中国、デンマークやノルウェイからの担当者が、自分たちの国でも SMC を立ち上げる計画だと話し、皆が興奮しました。私たちの冒険はこれからスタートします。もちろん、色んな壁にぶつかるとは思いますが、もうすでにコラボレーションをすることによって世界のメディアや科学に役立っているケースが増えはじめています。



Dr Susannah Elliott
CEO / AusSMC
オーストラリア

私にとって、広がっていくサイエンス・メディア・センターの国際ネットワークは、科学メディア上で最も期待していることです。2010年、日本のサイエンス・メディア・センターは世界で5つ目の SMC になり、世界各国のコラボレーションが可能になることを期待していました。

東日本大震災においては、SMCJ は言葉というバリアを超えて日本人専門家の声を海外に発信しました。新しいセンターにとってチャレンジングでしたが、国内と海外のジャーナリストのために重要な情報を伝える役目を果たすことが出来ました。当時は、適切な情報が少なくして人々は深刻な不安を抱えていましたが、SMC ネットワークを使うことによ

て、メディアに放射線、原発、汚染、そして安全に関する情報を送り続けることができました。単独での活動よりも、5つの SMC が協働することによって、より力強くなり、世界的なインパクトを持ちました。

私たちの将来のビジョンは、SMC グローバルネットワークが適切な科学情報をメディアに伝えるための強い味方になることと、社会が冷静でいられるように環境問題から HIV までの情報を扱えるようになることです。こうした目的に向かって私たちは歩みを進めていきます。



2013年 SMC 国際会議（ヘルシンキ）

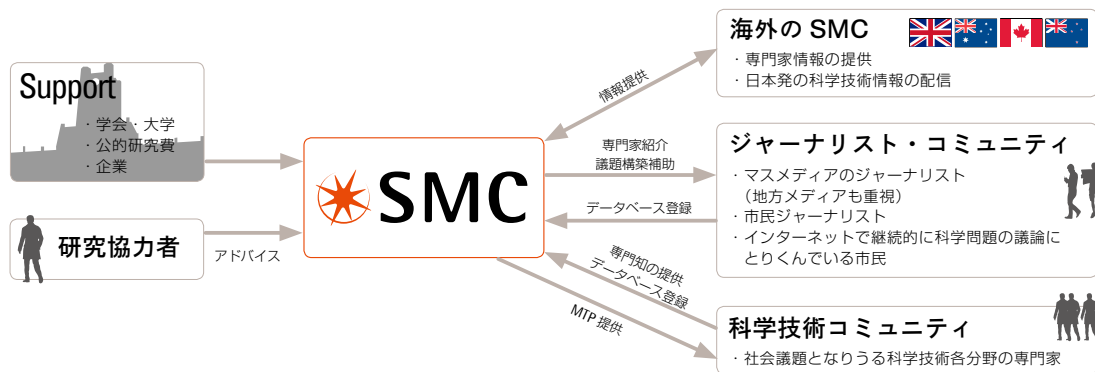
SMCJの 持続可能な活動に向けて

イノベーションには、いくつもの困難があります。「今まで社会に存在しなかった仕組みをつくる」といったことが難しいのはもちろんですが、さらに難しいのは持続可能性——「その仕組みを社会に根付かせること」です。たとえば科学にしても、応用研究は民間でできても、その種となる基礎研究は公的資金で行い続けなければならないように、「誰もが重要とわかっている、市場原理だけでは賄えない仕組み」が存在します。

いまやSMCJの「機能」は諸外国のSMCと遜色ないレベルに達し、多方面から賞賛をいただいています。しかし持続可能性に対する挑戦はこれからです。

SMCJは、科学技術振興機構の研究費によって誕生・発展してきました。しかしその機能に求められる独立性を思うと、学術組織や民間企業など、できるだけ多様な組織からの支援によって運営されるのが理想です。そうして初めて、SMCJは特定の組織の利害に縛られず、「科学的議論のバランス」を追求することが可能になるからです。

科学技術のアウトリーチの新たな形式として、あるいは新たなCSRのかたちとして、「社会の健全な科学的議論に貢献する」ためのSMCJの活動に、御支援いただければ幸いです。



戦略的な社会貢献を

科学技術は地球温暖化や生物多様性といった環境問題や食の安全・安心の問題などの社会問題をを解決する際の重要な要素です。これらの問題に対する対症療法的な投資が、企業の社会的責任の果たし方のひとつとして行われてきました。しかし、科学的成果と問題とを結びつける「インフラ」にはあまり光が当てられ

てきていません。

SMC が提供する社会技術は、社会的な問題・科学技術・メディアの3者をより強く結びつけることができます。企業の長期的な信頼と利益のために、戦略的なフィランソロピーを考えてみませんか？

海外の SMC ネットワークからのメッセージ



Peter Yates AM
Chairperson / AusSMC
オーストラリア

メディア構築に重要な役割を果たす SMC

サイエンス・メディア・センター (SMC) は、メディアを支える重要な要素といえます。まず、さまざまなメディアに対し、安価で有益な科学情報を提供することができます。その量は、経済部、スポーツ部、政治部などの情報と並ぶほどです。また、科学的根拠に基づいた正しい情報を提供することにより、「情報の信頼性」を保障する機能を果たしています。メディアに向けたこうしたサービスは、市民に対して正しい科学情報を届けることにもつながり、議論や科学への興味を喚起することにも貢献しています。

世界に向けて、日本発の情報を！

SMCJ には、海外からの情報を日本国内で配信するだけでなく、日本発の情報を海外に向けて発信する努力をしてほしいと願っています。発足直後に東日本大震災に見舞われ、津波と原発事故という異例の混乱状態を経験しました。こうした試練を経て、存在感をさらに増していくものと期待しています。SMCJ が大きく成長するのを楽しみにしています。

企業の パブリックリレーション としての SMC 支援

英国 SMC は「一つの出資もとから受ける寄付は、SMC の全運営資金の 5% を上限額とする」というルール（キャップ・ルール）を設け、70 社を越える企業から年間で合計 8000 万円近い寄付金を受けています。

その中には大手石油企業の BP 社も含まれます。しかし、メキシコ湾の石油漏出事故の後、英国 SMC はジャーナリストに向けて BP 社に不利になるかもしれない科学者のコメントも伝え続けました。このとき BP 社は出資をやめる選択肢もありましたが、以前と変わらず寄付を続けています。パブリック・リレーションズの観点からは、この選択は BP 社の社会的な公正さを目指す姿勢を表していることとなります。

私たちは、まずは「10% キャップ・ルール」を目標としています。私どものこれまでの活動は光栄にも良い評価を頂きました。SMC の持続可能な活動のため、皆様のご支援をお待ちしております。

Supporters

ご支援いただいている組織



Research Institute of
Science and Technology for
Society

www.ristex.jp/

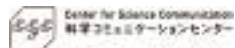


豪日交流基金
Australia-Japan FOUNDATION

ajf.australia.or.jp/



www.sakura.ad.jp/



www.jst.go.jp/csc/workshop/

WEB Site and Social Media

ウェブサイトとソーシャルメディアアカウント

WEB	smc-japan.org 公式 WEB サイト (日本語・English)
Twitter 日本語	@smcjapan twitter.com/smcjapan
Twitter 英語	@smcjapan_eng twitter.com/smcjapan_eng
USTREAM	SMC-Japan www.ustream.tv/user/SMC-Japan/videos

Contact

研究プロジェクト連絡先

Mail	smc@smc-japan.org
TEL/FAX	03-3202-2514
住所	169-8050 東京都 新宿区西早稲田 1-6-1 早稲田大学 3 号館 1119 号

Board and Staff

SMC の理事とスタッフ

代表理事	佐藤 正志	早稲田大学 理事 政治経済学術院 教授
理事	瀬川 至朗	早稲田大学 大学院政治学研究科 教授 ジャーナリズムコース プログラム・マネージャー
	栃内 新	北海道大学 大学院理学研究院 教授
	渡辺 政隆	筑波大学 広報室 教授 / サイエンスコミュニケーター
	岡本 真	㈱アカデミック・リソース・ガイド代表取締役
スタッフ	田中幹人 / 角林元子 / 野地実穂 / 坂巻たみ / 菊地乃依瑠 / 西村尚子 / 樋口善昭 / 森川浩司 / 富田誠 / 難波美帆	